ＮＰＯ法人北海道歩くスキー協会広報誌「歩くスキー第 12 号（平成 28 年度第３回）」平成２９年３月３１日

もっとスポーツを！！いつでも、どこでも、誰でもできる

歩くスキー

冬季アジア札幌大会特集

「歩くスキーをアジアの文化に」 北海道歩くスキー協会　会長　浜島　泉

協会創立 40 周年の際に、歩くスキーは北海道の文化、日本のスポーツ文化になったと誇示しました。自画自賛でだけではなく、国内のメディアでは歩くスキーという言葉が説明なしで通用するになりました。

昨年までの雪まつり歩くスキー体験コーナーで、アジア諸国からの観光客が歩くスキーを体験して帰国し、伝えてくれたようで、今年の旅行者は、歩くスキーに関心を示しました。日本の旅行メディアも、取り入れて働きかけています。各地のスキーマラソンにも、留学生や滞留外国人が参加します。

今年は、アジア冬季スポーツ札幌大会が開催されました。これからは、私たちの普及対象にアジアの人たちが、含まれるようになるかも知れません。歩くスキーが、アジアの文化になる時代が来るのです。北海道の人が、この役割を担うのです。

２０１７冬季アジア札幌大会　札幌と帯広で開催される

２０１７冬季アジア札幌大会が、札幌と帯広で２月１９日（日）から２月２６日（日）の７日間にわたり開催されました。２月１９日（日）の札幌ドームの開催式を皮切りに、５競技・１１種目が３２ヵ国１７８２人の選手で競われ、日本は選手１４６人、コーチ８４人の陣容で, メダルは参加国中ランク１位の金メダル２７個、銀メダル２１個、銅メダル２６個を獲得しました。

（協会ボランティア）

大会を支援するボランティアは４６００人で、北海道歩くスキー協会員も２９名が参加し、各会場の円滑な運営に多大な貢献をしました。特に北海道歩くスキー協会の４０年にわたる「歩くスキー」の大会運営ノウハウを活かすことができる「クロスカントリースキー」競技には、札幌スキー連盟所属の北海道歩くスキー協会員１８名が参加し、おおいに活躍しました。

（日本男子リレーチーム）

２０１７冬季アジア札幌大会「クロスカントリースキー」競技の主要な参加国は、日本（男女合計で金７、銀１、銅３）、カザフスタン（同金１、銀４、銅２）、韓国（同金１、銀３、銅３）、中国（同金１、銀２、銅２）の４ヵ国ですが、練習環境の厳しい南アジアのインド、ネパール、パキスタン、スリランカ、東南アジアのタイ、ベトナム、西アジアのレバノンが参加しており注目されます。

クロスカントリースキー競技の白旗山会場には「歩くスキー体験コーナー」が設けられており、若者のボランティアが「歩くスキーがアジアの文化になる時代」に向かって、クロスカントリースキー主要４ヶ国はもちろん南アジア、東南アジア、西アジアに普及する役割を担っているようで頼

（歩くスキー体験コーナー）　もしく感じられました。　（日本女子リレーチーム）

冬季アジア札幌大会「ボランティア日誌」

「クロスカントリースキー会場での感動」竹田　弘

クロスカントリースキーの 2 日目(2/21)、強風による吹雪と低温の中、フリー競技に雪が全くない赤道直下の国「スリランカ」から 2 名の選手が初参加した。北 5ｋｍと南 2.5ｋｍを 2 周して 15ｋｍで順位を競う種目である。30 秒間隔で 2 番と 5 番目にスタートしたが、スキー技術は初　心者に毛の生えた程度である。大半の選手が予想時間内にフィニッシュしたが、両選手は姿を見せず、途中棄権も予想された。

12.5ｋｍ本部前で最後の選手にスリランカのコーチが、ここで滑走を中断するように言葉を掛けた。本人は一度立ち止まり「Ｎｏ、Ｎｏ！！」と云って去り、残り 2.5ｋｍの南の急な登りコースに立ち向かって行った。それから暫くして、フィニッシュに向けて姿を現した時には、観客全員が歓声と大きな拍手でその選手の健闘に賛辞を贈った。最後まで諦めずに他の選手の 3 倍もの時間を掛けて走り切った姿(写真)に、大きな感動を覚えた。

「テイネ会場でのサッポロスマイル」久々江輝喜

私の担当は手稲山での施設内各所へのアクセスのために必要なゾーンコードのチェック業務でした。

こういう機会はないので選手に「サッポロスマイル」で接しました。

「京王プラザでの出会い」松山真理子

赤いウェアを着込んで、ワクワクして出かけた。仕事は午後 3 時から 6 人グループで輸送の誘導と見送りです。ほとんどの人が胸に「English」、「中文」などの札を貼っているが、私はノーマークで役に立つとは思えない。ホテルに行き来する外国人のウェアから、タイ、ベトナム、カザフスタン、キルギスなどの国名が読み取れるが、英会話に自信がなく、ひと言積極的に「ウエルカム、サッポロ」と言うことができない自分が悲しくなりました。また、待機時間中に中国の留学生と話したことや、ＮＯＣ本部の人に、ボランティアの努力で札幌の良さが世界に広まり、今後の大会の誘致につながるので、とても役に立ってますと言われ、とてもうれしく思いました。

「カーリング会場でのジャズ演奏」豊吉　孝

ゲーム感覚のカーリングを観戦しながらのボランティアは楽しい。24 日は南月寒小吹奏楽部が女子の決勝戦の前にジャズを演奏、選手も観客も笑顔と手拍子で多いに盛り上がった。

「西岡バイアスロン会場での躍動」津久井好雄

「スキーで野をかけ回り、銃で獲物を撃つ冬の狩猟」から生まれたバイアスロン。躍動する選手の姿に魅了されました。

協会ニュース（平成 28 年度冬季総集編）ホームページ：ｈttp://h-arukuski.sakura.ne.jp/も参照下さい。

●平成２８年度第 11 回救命救急講習会

H28.12.10（土）参加人員：19 名

平成 12 年に第 1 回を厚別消防署で行い、今年は第 11 回目を札幌北辰病院、札幌防災協会の救急救命士を講師に迎えて行いました。最後に確認テストを行い全員が「救命講習修了証」を受領しました。

（ＡＥＤの使用法）

●平成２８年度クロスカントリースキー講習会

（会員向け）H28.12.23（祝、金）参加人員：16 名

北日本で発達中の低気圧で大荒れの滝野公園で、新講師メイトレーディング田中 誠氏と協会指導部が午前はクラシカル、スケーティング走法の実技、午後はワックス講習会を行いました。

（真っ白な受講者）

●平成２８年度初めての歩くスキー“滝を見に行こう”

H29.1.7(土)～2.4（各土曜日）各回定員：20 名

今年は「渓流ゾーン」の積雪量が昨年の 3 倍と絶好のコースコンデションで行いました。今日の参加者は小学生連れの３家族とこれから健康づくりに”歩くスキー”に取り組みたいというご夫婦２組でした。

（アシリベツの滝で）

●第３３回滝野公園歩くスキー大会・第３回滝野公園クロスカントリースキー記録会

H29.1.9（月、祝）参加人員：304 名

江川さんのデモの後、歩くスキー大会と記録会が行われました。積雪は１ｍと十分ですが、ベタ雪が降るという悪条件の中,各自のペースで完走しました。

（記録会 16ｋｍスタート）

協 会 ニ ュ ー ス

●第３７回　障がい者歩くスキーの集い
H29.1.15（日）参加者：170 名（選手、伴走者）

冬晴れの中、小さな子供さんからお年寄りまで幅広い年齢層の方が、家族同志で和気あいあい、又伴走者の鈴の音に合わせ雪景色を楽しみながら、完走し、満足感に満ちていました。

（力走する参加者）

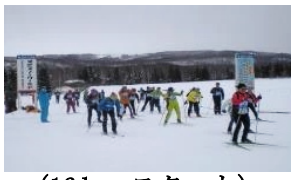
●外国人メディア関係者「歩くスキー体験」指導
H29.1.19（木）参加者：6 名（豪州、タイ、台湾）

「北海道スノートラベルエキスポ２０１７」メディア関係者６名が多忙なスケジュールの中、滝野公園を訪れ「歩くスキー」を体験しました。

（楽しかった！！）

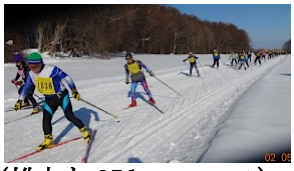
●第４２回　道民・札幌市民歩くスキーの集い
H29.1.22(日)　参加人員：79 名

今年は他の大会と重なり、参加者が少ないのですが、昭和５１年に第１回大会を開催し、今回４２回目を迎える、国内では大変歴史のある大会です。次回は多数の方の参加を宜しくお願い致します。


（16ｋｍスタート）

●第３７回　札幌国際スキーマラソン
H29.2.5（日）参加人員：1,901 名（海外：49 名）

世界 20 ヵ国、20 大会で構成される国際的なクロスカントリースキー大会です。快晴に恵まれ徐々に気温も上がり絶好のコンディションの中、幅広い年齢層の参加者が快走しました。


（雄大な 25ｋｍコース）

●第 38 回石狩浜歩くスキー&かんじきウォーキングの集い
H29.2.5(日)　参加人員：50 名

例年と違い晴天で風もなく絶好のスキー日和でしたが、積雪が例年の半分でコースは急きょ道路を利用する往復のコースと成りました。外国の若い男女４名も参加、ゴール後温泉でくつろぎました。

（記念写真）

（冬季アジア大会日本男子リレー４ｘ７．５ｋｍ選手）

●第２７回おおたき国際スキーマラソン
H29.2.12（日）　参加人員：494 名（海外：2 名）

７歳から８６歳までの参加者は、清流・長流川沿いや白銀に輝く徳舜瞥山ろくの雄大な自然を満喫しました。公認コースを平地はスケーティング、下りは直滑降で加速等、自分に合ったペースで力走しました。

（7ｋｍスタート前）

●第４回スノーデュアスロン北海道２０１７
H29.2.12（日）　参加人員：11 名

雪の国際都市「札幌」が発祥の地のスノー自転車とクロスカントリースキーを組み合わせたタイムトライアルレースです。各選手は完走と記録に挑戦し北海道の冬をアクティブに楽しみました。

（開会式の参加者）

●２０１７道新Ｊｒ歩くスキー教室ｉｎ中島公園
H29.2.19（日）　参加人員：午前 51 名、午後 49 名

札幌市内・近郊の小学生を対象に全日本選手権出場経験のある田中 誠さんと協会指導員による、「次世代の選手」を基礎から指導するジュニア教室です。

（午前の部の参加者）

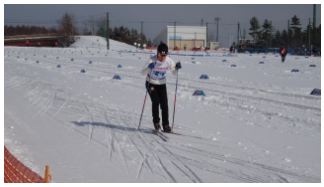
最初はぎごちない歩きの１年生も３０分位するとスイスイと歩けるようになっていました。最後にミニレースをして今日の教室の成果を確かめました、それを見ていたお母さん達は熱い声援で応援していました。

（午後の部の参加者）

●野幌森林公園スノーハイキング
H29.2.26（日）参加人員：19 名

今回初めての企画です。北海道１００年を記念して指定された道立自然公園で、「いやーああーー、きれいでっすねーー」「今日は来てよかったあーー」「すばらしいですね～～」と皆さんは大喜びで歩きました。

（遊歩道分岐点で）



（冬季アジア大会日本女子リレー４ｘ５ｋｍ選手）

協 会 ニ ュ ー ス

●外国人「滝野スノーワールド雪遊び体験会」
H29.3.4（土）参加者：１１カ国 14 名
滝野公園が外国人観光客の集客につなげる企画です。ベトナム、フランス、香港、マダガスカル、ブラジル、米国、ナイジェリア、英国、インド、エジプト、フィリッピンの留学生などが参加しました。

（アシリベツの滝で）

●第１２回利根別原生林スキーハイキング
H29.3.5（日）参加：協会 4 名　岩見沢　32 名
昨年と同様希望者のみの参加でした。積雪は例年の半分 46ｃｍでしたが、雪質は良く、チャレジナブルな斜面のコースのスリルとスピードを満喫しました。甘酒を頂いた後、現地解散しました。

（樹間を縫って歩く）

●第３回北海道歩くスキー協会「歩くスキーの集い」
H29.3.12（日）　参加人員：107 名
快晴に恵まれた春の息吹を感じる天候の中、良く整備された常設コースを８歳から８７歳の幅広い年齢層の方が自分の体力や技量に合わせて白銀の世界を快走いたしました。皆様の来年度の参加もお願いいたします。

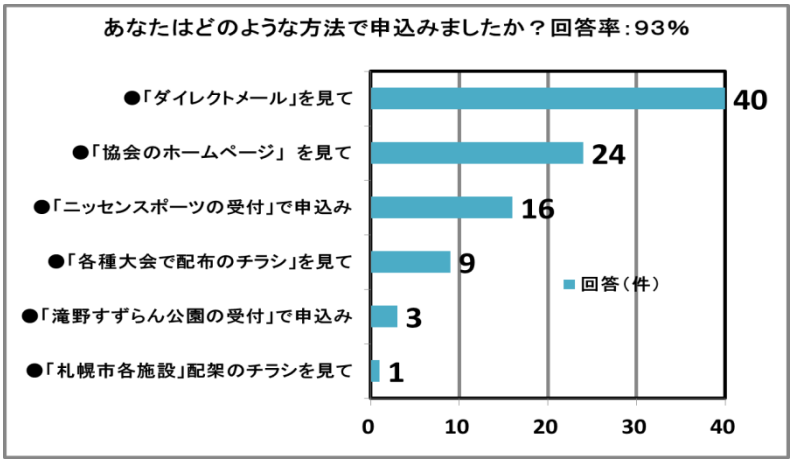
（16ｋｍスタート）

●平成２８年度石狩市冬季スポーツ教室
H29.1.11（水）～3.15（水）参加人員：288 名
石狩市は「スポーツ健康都市」を宣言しており冬季の歩くスキーを通じて、健康づくり、からだと心を鍛え、スポーツの推進を図っています。閉校式で１３名の方が皆勤賞を授与されました。

（参加者の皆さん）

会 員 の 広 場

●第 3 回北海道歩くスキー協会
「歩くスキーの集い」アンケート集計
3 月 12 日（日）、協会主催の最終の大会である北海道歩くスキー協会「歩くスキーの集い」を開催しました。当日、協会主催 2 大会の参加者の増大と経費の効率化を図ることを目的に、皆さんがどのような方法で大会参加の申込をされているか、アンケートを実施しました。当日 100 名中 93 名の方の回答を頂き、大変有意義なアンケート結果が得られました。新規 29 年度事業計画にアンケート結果を十分反映致す所存です。



●「会員の皆様へ」事務局よりのお知らせ
やがて新年度：平成２９年度（6 月から）を向かえますが、引続き会員の継続をお願い致します。

●はじめての人でも「歩くスキーを楽しめる本」
歩くスキーを初めての方にもわかりやすく解説している本です。
定価　８４０円　事務局に有ります（書店には有りません）。

NPO法人　北海道歩くスキー協会事務局
〒060-0808 札幌市北区北8西3丁目28番　札幌エルプラザ2階
TEL, FAX：（011）－747－1505
受付日：火、水、金、土曜日
受付時間：10時00分～17時00分
ホームページ　：　h-arukuski.sakura.ne.jp
メール　：　h_arukuski@yahoo.co.jp
郵便為替、口座記号番号：02740－8－100335　北海道歩くスキー協会